

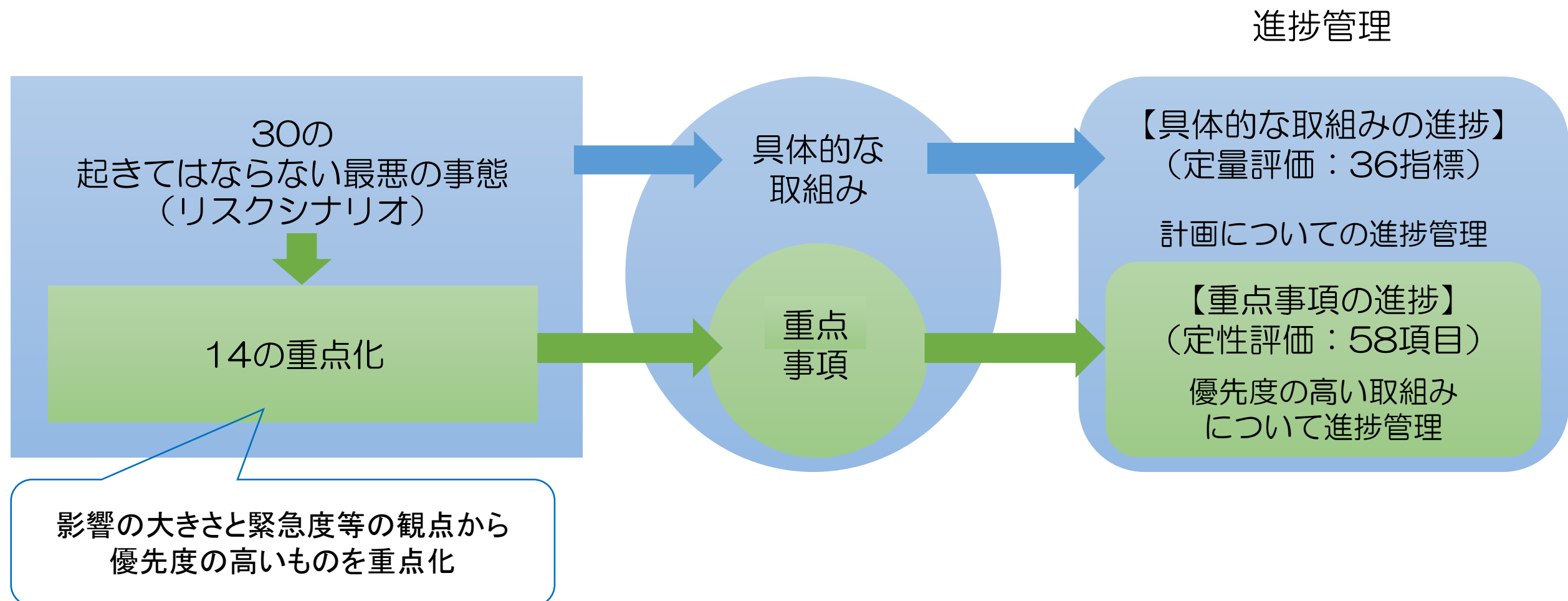
○計画の進捗管理について

◆本計画では、本市における30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と、それに対応するための「具体的な取組み」を設定しています。

◆また、30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」のうち優先度の高いものを重点化として14項目抽出し、それに対する「具体的な取組み」を「重点事項」としています。

◆進捗管理は「具体的な取組み」と「重点事項」について毎年度行います。

- 具体的な取組み：指標を用い達成度を定量的に把握・評価して、計画の進捗管理を行います。
- 重点事項：定性的に把握して、進捗管理を行います。



○進捗状況について

◆指標の推移について

- 本計画では36の指標を設定しています。昨年度から達成指標は1指標増え、4割の指標において目標を達成、また、取組中のものでも全体の4割弱の指標が前年度に比べ上向きに推移しています。

指標の推移			
取組み状況（単位：指標数）			
達成	上向き【↗】	横ばい【→】	下向き【↘】
13	12	5	2
40.6%	37.5%	15.6%	6.3%

＜指標の推移の定義＞
【 達成 】 令和5年度に目標を達成した指標
【上向き(↗)】 目標達成はしていないが、昨年度よりも上昇傾向の指標
【横ばい(→)】 昨年度と達成度が変わらなかったもの
【下向き(↘)】 昨年度と比較して達成度が下降した指標

なお、下向きとなった指標は以下の2指標です。

- 防災出前講座の実施回数
- 危険物施設の立入検査の結果と改善率

※実績値の比較ができなかったものおよび評価対象外の指標を除く（計4指標）

（備考）なお、指標には、計画最終年度の令和6年度以降を目標年度とする指標も含まれており、計画期間（令和6年度まで）が終了しても100%達成とはならない計画になっています。令和6年度までを目標年度とする指標（23指標）の達成率は、56.5%です。

指標の推移（令和6年度までを目標年度とする指標：23指標）			
取組み状況（単位：指標数）			
達成	上向き【↗】	横ばい【→】	下向き【↘】
13	7	1	2
56.5%	30.4%	4.3%	8.7%

○進捗状況について

◆「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」ごとの状況について

- ・ 30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と14の重点化として設定したリスクシナリオに対応する指標の達成状況は以下のとおりです。

（注：指標は複数のリスクシナリオに対応しているため、重複して掲載しています。）

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）						
	取組み状況						達成率
	取組数	達成	上向き	横ばい	下向き	実績値なし	
1－1 (※) 住宅・建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や不特定多数が集まる施設の倒壊による多数の死傷者の発生	23	6	9	5	1	2	26.1%
1－2 (※) 密集市街地や不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生	19	6	7	3	1	2	31.6%
1－3 (※) 大規模津波等による多数の死傷者の発生	14	6	6	2	0	0	42.9%
1－4 (※) 突発的又は広域かつ長期的な市街地等の浸水による多数の死傷者の発生	14	6	6	2	0	0	42.9%
2－1 (※) 被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の停止	12	3	5	2	0	0	25.0%
2－2 (※) 警察、消防等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足	14	2	5	3	1	1	14.3%
2－3 想定を超える大量の帰宅困難者の発生、混乱	4	1	3	0	0	0	25.0%
2－4 (※) 医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺	8	2	2	3	0	1	25.0%
2－5 被災地における疫病・感染症等の大規模発生	9	4	3	1	0	1	44.4%

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）						
	取組み状況						達成率
	取組数	達成	上向き	横ばい	下向き	実績値なし	
2ー6 (※) 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生	10	6	4	0	0	0	60.0%
3ー1 職員・施設等の被災による機能の大幅な低下	9	3	2	2	0	2	33.3%
4ー1 (※) 防災・災害対応に必要な通信インフラの麻痺・機能停止	21	9	9	2	0	1	42.9%
4ー2 テレビ・ラジオ放送の中断等により災害情報が必要な者に伝達できない事態	13	6	6	1	0	0	46.2%
4ー3 (※) 災害時に活用する情報サービスが機能停止し、情報の収集・伝達ができず、避難行動や救助・支援が遅れる事態	14	8	5	1	0	0	57.1%
5ー1 (※) サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下	18	5	8	4	0	1	27.8%
5ー2 重要な産業施設の損壊、火災、爆発等	13	2	6	3	1	1	15.4%
6ー1 (※) 上水道等の長期間にわたる供給停止	4	1	3	0	0	0	25.0%
6ー2 汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止	4	1	3	0	0	0	25.0%
6ー3 (※) 交通インフラの長期間にわたる機能停止	6	0	2	3	0	1	0.0%
6ー4 防災インフラの長期間にわたる機能不全	7	2	3	1	0	1	28.6%
7ー1 (※) 地震に伴う市街地の大規模火災の発生による多数の死傷者の発生	7	2	2	1	1	1	28.6%

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの		指標の達成状況（単位：指標数）						
		取組み状況					達成率	
		取組数	達成	上向き	横ばい	下向き		実績値なし
7-2	沿線・沿道の建物倒壊に伴う閉塞、地下構造物の倒壊等に伴う陥没による交通麻痺	16	3	6	4	1	2	18.8%
7-3	ため池、防災インフラ等の損壊・機能不全や堆積した土砂の流出による多数の死傷者の発生	14	3	5	4	1	1	21.4%
7-4	有害物質の大規模拡散・流出による国土の荒廃	3	1	1	0	1	0	33.3%
7-5	農地・森林等の被害による国土の荒廃	3	1	1	0	1	0	33.3%
8-1	大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞による復興が大幅に遅れる事態	4	1	2	0	1	0	25.0%
8-2	復興を支える人材等（専門家、コーディネーター、労働者、地域に精通した技術者等）の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態	4	1	2	1	0	0	25.0%
8-3	広域地盤沈下等による広域・長期にわたる浸水被害の発生により復興が大幅に遅れる事態	3	1	1	1	0	0	33.3%
8-4	貴重な文化財や環境的資産の喪失、地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失	17	7	7	2	0	1	41.2%
8-5	事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態	4	1	1	1	0	1	25.0%

○進捗状況について

◆重点事項の取組みについて

- 本市初となる全市一斉防災訓練を実施し、防災訓練としては過去最大規模となる約2,500人の市民の参加が実現しました。
- 専門性の高い防災講座等を希望する団体や企業が増えたことから、防災アドバイザーの派遣件数が増加しました。
- 市内11校の小中学校の開放型渡り廊下や外部階段の耐震改修を行い、対象校数21校（小学校15校、中学校6校）全ての耐震化が完了しました。
- 庄内体育館及びローズ文化ホールの特設天井の耐震化工事を実施しました。（令和6年度完了予定）

○今後の取組みと目標について

- 引き続き、強靱化地域計画の進捗状況を取りまとめ、関係部局と連携しながら大規模自然災害への備えをすすめていきます。
- 現行の豊中市強靱化地域計画の計画期間終了と国の基本計画の改訂をふまえ、新たに第2期豊中市強靱化地域計画を策定します。

